

かわまたで暮らす

移住してきたからこそ、川俣町で暮らすことの魅力を伝えたい。そんな想いで活動する持田弘恵さんと地域おこし協力隊の佐原孝兵さんに話を聞きました。



1 県外からの見学者のおもてなしもお手伝い 2 移住した女性向けのピザ作り教室で講師をする持田さん 3 イベントなどでパンを販売することもある



持田 弘恵 さん（宮ノ脇）

“食育”を通して子どもたちに

この町で暮らすことの楽しさを伝えたい

食育の楽しさ

「食育」と聞くと食事や栄養バランスについて学ぶことを思い浮かべるかもしれませんが、私たちは「家族や友だちと一緒に食べる楽しみ」を子どもたちに伝えたいと考えています。

以前「川俣町は何も

ないんだ」とパン作り教室に来てくれた子どもが話していたことがありました。大人になった時に地元に戻ることを考えるのは、その町で楽しかった経験があるからだと思います。

子どもたちの中で「こんな体験ができる地域」「ご飯を食べる時間を楽しめた場所」とこの町での思い出に誇りを持って話してくれる故郷になった良いなと思っています。これからも活動していきたいと思っています。

ここにいるからできる食育

今後は自宅でのパン作り教室から少しフィールドを拡げて小中学校での食育教室や農家や酪農家、果樹園の方と連携して栽培や収穫などを体験する機会を作っていきたいと考えています。自分の目で見て実際に触れた知識や経験は大人になっても忘れることはありません。高校卒業後、町外に転出してしまいが人が多い中で、子どもの頃に学んだ食に対する知識や経験が川俣町を思い出すきっかけになってくれたら嬉しいですね。

移住のきっかけは巡り合い

私たちが川俣町に移住したのは、今住んでいる家の前の住人が知人で私たち自身が川俣町のことを知っていたことも決め手の一つです。移住したい人が何の繋がりもない町に移住することは少ないと思います。しかし、私たちがこの町へ移住してきたように私たちの活動が巡り巡って川俣町への移住を考えるきっかけとなったら嬉しいです。

ありのままが素敵だから

昨年の移住体験ツアーで初めて川俣町に来た時に、この町で暮らしている人たちが「自分の仕事に誇りをもって活き活きと暮らしている」と感じました。そんな素敵な川俣町の姿は、脚色することなくありのままに伝えることが一番良いと思い、ドキュメンタリー形式で映像を撮ろうと思いました。

きっかけになる動画を

「関係人口の創出・増加」という目標に向け映像を製作する際には、川俣町のことを全く知らない人が映像を見た時に川俣町に興味を持ってもらい「一度でもいいから行ってみたいな」と思ってもらえるような映像にすることを心掛けています。

また、川俣町から移住していった人たちに川俣町の今を見てもらい、懐かしさだったり新鮮さを感じてもらうことも出来たらいいなと思います。町の人たちに取材をする中で「同級生はほとんど町外

に出ていつてしまった」「昔はたくさんの方が商店街を歩いていた」と話してくれた方の横顔からは東京で生まれ育った僕が今まで感じることのなかった「人口減少」という問題を初めて身近にあることを実感しました。自分の活動が今すぐに「移住」という結果を出すことは難しいかもしれませんが、今後の活動の中で「移住のきっかけ」になるような動画を製作していきたいと思っています。

「田舎と都会」の二地域居住

普段は都会で過ごし週末などに田舎で過ごすイメージのある二地域居住ですが、現在、僕はこの川俣町を拠点に仙台や東京での仕事も行っています。任期終了後もこの川俣町に拠点を置きながら東京など都市部での仕事を行い「二地域居住」の可能性もたくさんの人に自分自身を通して伝えたいと思います。

この町で僕が見たもの、感じた魅力を

映像を通してたくさんの人に伝えたい



こうへい
佐原 孝兵 さん（東福沢）



◁帰れる場所はひとつじゃないドキュメンタリー映像チャンネル（YoutubeQR コード）

- 1 ドキュメンタリーの編集は自宅で行っている
- 2 活動の一環として町民向けの動画編集教室を行った
- 3 川俣シャモについて話を聞く佐原さん

